

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり竹田		
所在地	竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は城下町竹田の中心地に位置し、歴史を肌で感じられる環境の中にあります。年間を通じて竹田ならではの行事や催事が数多く開催され、それが入所の皆さんの楽しみにもなっています。家庭的な雰囲気の中、入居者様の心に寄り添い信頼しあえる関係づくりを心掛け、生きがいと喜びを持って暮らしていただけるよう職員一同支援に取り組んでいます。また、身体の残存機能を活かした体操やレクリエーションを取り入れ、身体機能の低下を防ぐと同時に、食事面でも「美味しく健康に」をテーマに旬の食材を活用した手作り料理を提供しています。

事業所は商店街の中心部にあり、地域の散歩、商店などへの外出で日常的に地域住民との交流ができています。食事は利用者の希望をもとに旬の食材を活用した手作り料理で、職員も一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる時間に行っています。また、職員同士のコミュニケーションがとれており、何でも話し合える雰囲気ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が安心して快適に暮らせるように、アットホームな雰囲気を提供し、職員は常に感謝と尊敬の気持ちを持って利用者との関わりを持つように心がけている。	「住み慣れたこの地で穏やかに暮らしたい」という理念を掲示し、職員は常に感謝と尊敬の気持ちを持ち、個々の生活ペースを受け入れながら接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に出かけ、近隣の方と接する機会を設けたり、敬老会などの所内行事に地域の高齢者や運営推進委員を招待するなど、地域とのつながりが途切れないようにしている。	事業所は竹田市の中心街にあるため、地域の行事や買い物、散歩など近隣の方々と接する機会が多い。また、事業所の行事に地域の高齢者や運営推進委員を招待するなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所近辺に多くの高齢者が暮らしており、顔を合わせる毎に積極的に話しかけたり、敬老会に招待したりなど、普段から関わりを持つように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、直面している問題点などを議題にあげ、推進委員からの意見を参考にしながら支援に活かすようにしている。	運営推進会議を定期的に行い、地域住民の委員も多い。利用者の状況報告、事業所の課題の提示や評価結果の報告を行い、出された意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市の関係部署と情報交換を行い、事業所の抱える課題など気軽に相談できるような関係を築いている。	市の関係部署と連絡を密に取り、事業所が抱えている課題など気軽に相談している。また、市と協力して生きがいサロンや認知症ケアに積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項を全職員が理解し、いかに拘束をしないで済む支援をしていくか、各ケース毎に随時検討している。玄関は防犯の観点から夜間のみ施錠をするようにしている。	職員全員で身体拘束の弊害を正しく認識しており、転倒や転落などを予防するため、マットを工夫したり、光センサーを設置するなど、カンファレンスで検討を重ね、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティング時に虐待防止の意識付けを行っており、いかなる場合も虐待につながる行為がないよう注意を払っている。		

事業者名:グループホームしらゆり竹田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設のケアマネージャーが権利擁護や成年後見制度の専門知識を持っており、ケアプラン作成時など機会がある毎に、それらの意義や重要性を学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学では、ありのままの姿をみてもらい、利用者や家族が不安を抱くことがないように、十分な説明と質疑応答を行い、納得していただいた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、自由に意見・要望を投書できるようにしている。また、家族等の来所時にも意見や要望を聞き出せるよう、家族・職員間のコミュニケーションの機会を設けている。	来所時に、管理者または担当職員が意見や要望を聴くようにしている。また、来所時は家族と職員のコミュニケーションの機会ととらえている。広報誌を年4回発行し、日々の暮らしぶりを理解してもらうとともに、年1回の家族会での意見などを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議等で職員からの意見や提案を収集し、運営が特定個人の意思に偏ることがないように配慮している。	月1回の定例会議には、休みの職員も含め全職員が出席し、出された意見を運営に活かしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、管理者の方から問いかけたりするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や向上心、自主性を正當に評価できるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が一定レベル以上の技量を習得すべく、各種研修会への積極的な参加を奨励しており、また定期的に自己評価制度を実施し自己の現在の力量を把握する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模事業所連携事業「たけたん絆」の開催する合同研修会に参加しており、他事業所との交流、意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いを早い段階から把握できるようコミュニケーションを密にし、職員との信頼関係を築きながら安心して生活できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が安心して介護を任せられるよう、あらゆる要望、相談に耳を傾け、誠意を持って対応するようにしている。また、利用者の生活の様子なども随時報告し、家族等が不安を抱くことがないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の心身の状態、要望等に応じ、家族、ケアマネと相談した上で、必要と思われるサービスの導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にしてできる範囲のことを手伝ってもらったり、日常の会話やレク、屋外散歩などを通じ、利用者と職員が同じ視線で気持ちを共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況等を家族にも理解してもらい、職員と家族が共通した介護認識を持ちながらサービスに反映している。また、家族と職員の意見交流の場として、年1回家族懇談会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や知人がいつでも気軽に訪問しやすい環境づくりを心掛けている。また、本人の行きたい場所へ出かけられるよう、可能な限りの支援を行っている。	本人の希望により、知人宅への訪問や事業所に親しい友人を招いたり、馴染みの神社や公園、商店や美容院に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう、きめ細やかな支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が寂しい思いをしたりストレスを抱えることがないように、利用者の個性や利用者間の相性を把握した上で席の配置や、レクリエーションの提供などに工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先(入院先)への情報提供を充分に行うと共に、サービス終了後も必要に応じて家族の相談に応じる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関りの中から本人の思いや意向を探り、可能な範囲でその思いが実現できるよう支援をしている。	日々の関わりの中での声かけや言葉、表情などから思いや意向、希望の把握に努めている。意思疎通の難しい利用者には家族や知人などから情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時に本人や家族から生活歴に関する情報を収集し、入所後もその人らしい生活を送れるよう支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解するとともに、常に心身状態の変化を見逃すことがないように注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関りの中から思いや要望を聞き、ケアマネ、職員又は医師の意見も交え、モニタリングやカンファレンスを行い介護計画に活かしている。	本人や家族から日常の関わりの中で思いや希望を聴き、職員全員および主治医の意見を入れカンファレンスを行い、介護計画を作成している。定期的にモニタリング見直しを行い、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に暮らしの様子や本人の発した言葉などを記録し、その情報を職員全員が共有した上で、新たな支援の導入につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外に、本人にとって今どのような支援が求められているのか、あらゆるサービスの中から最も相応しいものを選択できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事やイベントに積極的に出掛けるようしており、近隣や馴染みの人と関わりを持つように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施。かかりつけ医に利用者の病状、既往歴、ADL等の情報を提供しており、急変時などは24時間体制で医療サービスを受けられるようにしている。	主治医の訪問診療が月に2回実施されている。急変時は24時間対応の医療体制ができている。専門医の受診は職員が同行し、受診後は家族に報告を行い情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の身体的変化、精神的変化の把握に努め、医療機関への相談・受診が必要な場合には担当看護師と連絡を密に取り合い、適切な診療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過観察や衣類交換(洗濯)等、職員が交代で訪問。その際、病院の相談員等と治療経過や早期退院に向けた相談、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期や重篤時に関する意思確認書を交わすようしており、本人や家族の要望を優先した上で、終末期の対応について担当医も交え話し合いを持つようになっている。	利用開始時に、本人および家族へ重度化・終末期の希望を聴いているが、事業所としては看取りはしない方針を説明している。状態の変化に応じてその都度、家族、医師、事業所で話し合いを行い、病院へ搬送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小規模事業所連携事業で開催される救急救命講習に参加し、急変・事故時に適切な処置ができるよう、知識や技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の協力を得ながら、消防訓練(避難訓練)を実施している。また、災害発生時には全職員が避難活動に参加できるよう、緊急連絡網を確立している。	年1回、消防署による日中と夜間を想定した防災訓練・避難訓練、消火器の訓練などを実施している。運営推進委員も参加しており、緊急連絡網策定や備蓄も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性や性格を理解し、尊厳を損なうことなく、その人に相応しい声掛けや対応を心掛けている。	人格の尊重、プライバシーの保護について、カンファレンスや定例会議で意識を高めている。声かけや日常の関わりの中で気づいたことは管理者および職員同士で注意し合い、誇りやプライバシーを損ねない声かけ、対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を抑制することなく、自由に意思表示できるよう職員は傾聴姿勢を心掛け、可能な限り自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の様子から利用者一人ひとりの生活リズムやパターンを把握し、職員や施設側の都合で利用者を束縛することがないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用支援や季節や気候に合わせた衣類調整、あるいは爪切り、髭剃りなど、利用者が気持ち良く過ごせるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いができる利用者には準備を手伝ってもらい、また、利用者と職員が同じ食事を一緒に言葉を交わしながら楽しむようにしている。	利用者の希望を聞きながら、三食手作りの食事を提供している。地域の方から野菜などの差し入れも多く、季節を感じる食材を用いて利用者のできることを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで和やかに話しながら同じものを食べ、食事が楽しみの時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの健康状態、身体状況、好き嫌いなどを考慮し、メニューや食事量の調整をしている。また、食事量、水分量の記録を行い、摂取量が不足しないように気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きとうがいを励行しており、自分でできる方は見守り、できない方は職員の補助により口腔衛生を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜声掛けや誘導を行うことで、排泄の失敗を減らすようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の表情やしぐさで声かけを行い、トイレ誘導を行っている。日中は全員おむつは使用しないで尿取りパッドなどを使用し、トイレでの排泄を行い、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜、繊維質のものを豊富に活用し、水分も充分摂取できるように、お茶に限らずコーヒー、紅茶、牛乳など、飽きのこないよう工夫をしている。また、必要に応じて排便調整について、かかりつけ医への相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯はある程度決めているが、それ以外に入浴を希望する方がいれば柔軟に対応している。また、入浴時は利用者との会話を大切に、入浴を楽しみに思ってもらえるよう支援を行っている。	入浴日と時間帯はある程度決めているが、本人の希望により入浴できるよう柔軟に対応している。浴室の整備も行い、会話をしながら入浴が楽しいものとなるような支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間、昼寝時間など施設側の都合を押し付けることなく、利用者一人ひとりの生活リズムに応じて、自由に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬説明書や医師の説明にて目的や副作用を把握するように努め、症状の変化については、その都度医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの趣味趣向、得意なことなどを理解し、個々に応じた役割や楽しみごとなど、利用者に喜びややり甲斐を感じてもらえるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り(天気や気候にもよるが)近隣散歩や町内行事などを楽しめるよう外出機会を作っている。また、利用者の楽しみのひとつになるよう、花公園や外での食事会など定例行事も設けている。	事業所が市内の商店街にあるため、天気が良ければ日常的に近隣の散歩を行っている。また、市の行事や祭り事も多く、利用者と共に楽しんでいる。定例行事として車での遠出も計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方には出納長を用意し、職員が支援のもと買い物や金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて手紙や年賀状書きの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者が混乱することがないように、シンプルな造りになっている。また、ホール内には季節の花を飾ったり、壁面には季節毎のイベントに合わせた装飾を施し、施設にいても季節感を味わえるようにしている。	共用空間は明るくて、三食とも施設内で作るため、調理の音や匂いで五感を刺激され、生活感がある。テーブルの生花や壁面の飾りなどにも季節感を感じる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格、利用者間の相性などを考慮しながら、テーブルやソファの配置換えを随時行い、利用者が少しでも快適に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて居室にテレビ、ラジカセ、リクライニング椅子を設置したり、鉢植えや写真など、好きな時に自由に楽しめるようにしている。	各居室は、本人、家族、職員で話し合い、利用者が安らぎを得られるような馴染みのもの、仏壇や使い慣れた椅子、写真、鉢植えなどを置くなど、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の構造上、トイレや洗面所などの場所が分かりやすく、一人でも安全で迷うことなく行けるようにしている。		